

組織目標評価報告書（平成29年度）

部局名: **大学院医歯薬学総合研究科 医学系** 部長名: **那須 保友**

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	
①-1 目標	①-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組
<p>第3期中期目標・中期計画の2年目としての教育領域の目標を設定する。特に教育の質の向上と担保に際してはグローバル化に対応した種々の施策を包含・立案し推進を目指す。</p> <p>①部局の組織となった医療教育統合開発センターの位置づけを明確化し合理的な改組に向けた具体的な議論を加速し一定の方針を示す。</p> <p>②学びの強化のために大学院課程における教育の国際化を推進する。 従来、医療系(医学部、医歯薬学総合研究科、医療教育統合開発センター、病院)が一体となり作成・実践してきた、各分野を超えて多様なニーズに対応できる医療人育成のキャリアパスに国際化の視点を積極的に導入する。具体的には授業の英語化の促進、海外派遣プログラムの立案等を行う。</p> <p>③医療系が一体となった留学生・短期研修生の受け入れ促進: 部局におけるグローバル化に関する数値目標の持続的な達成を目指したプログラムの実施と新たなプログラムの策定を行う。 従来、医療教育統合開発センターを中心に推進されてきたシミュレーション教育についても、グローバル化の視点をより一層加味した有機的・機能的な協力体制を構築する</p>	<p>・医療教育統合開発センターについては、窓口の見える化、職種横断型組織連携可能な組織体系へと平成29年12月に医療教育センターとして再編した。また、本センターをより機動的に運営するため、医療教育センター運営会議を平成30年3月に設置した。本センターには、センター機能を担う9部門(医学教育研究部門他)が置かれており、部門会議等によりPDCAサイクルの確立を目指している。</p> <p>・医療系キャンパスとして、医療系部局(医学部、歯学部、薬学部、医歯薬学総合研究科(医療教育センター含む)、保健学研究科、大学病院)が一体となり教育等のグローバル化を推し進めるため、平成29年12月に「医療系キャンパスグローバル化プロジェクト推進会議」を設置し、平成30年1月には本会議コアメンバー会議を開催し、医療系キャンパスにおけるグローバル化の方向性を再確認した。具体的には中国からの医療研修医受入、ミャンマー医療支援プロジェクト推進、浙江省人民医院との交流、南方医科大学訪問団受入等々、有機的・機能的な連携協力体制を取りつつ事業展開している。</p>
①-2 全学の組織目標との関連	①-2 大学全体への貢献
全学の組織目標と密接に関連している。	SGU指標の達成を目標とした会議体の設置や医療教育の発展充実にに向けた組織再編等積極的に取り組んだ結果、大学の目標達成に関して積極的に貢献できた。
①-3 目標とする(重要視する)客観的指標	①-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況
<p>①英語授業数の増加</p> <p>②留学生・短期研修生受け入れプログラム及び数の増加</p> <p>③海外派遣者数の増加</p> <p>④大学院定数の充足</p>	大学院の定数は引き続き充足されるとともに、他の指標についてもおおむね達成されている。
②研究領域	
②-1 目標	②-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組
<p>第3期中期目標・中期計画の2年目として研究領域の目標を設定する。特に、大学としての組織目標である、研究大学「岡山大学」の構築を先導的に牽引するための種々の施策を実施する。</p> <p>①認定された医療法上の「臨床研究中核病院」としての活動を病院と緊密に連携しながら推進する。</p> <p>②認定された第3期橋渡し事業「橋渡し研究戦略的推進プログラム」の初年度として事業の推進を加速しつつ拠点としての自立化対応を引き続き強化させる。学外シーズの発掘・支援をより積極的に進める。</p> <p>③外部研究資金等の獲得の推進:各種競争的資金の獲得支援を病院と一体となり実施する。</p> <p>④産学官連携活動の推進:研究推進産学官連携機構医療系本部の活動強化</p> <p>⑤改組・再編された従来の医療系研究開発委員会である医療系等研究開発戦略委員会の活動をより活発化する 上記①～④の取り組みを有機的かつ効率的に実施するため、またグローバル化に対応するために実施する。</p>	<p>・医療法上の「臨床研究中核病院」事業ならびに「橋渡し研究戦略的推進プログラム」の今後の発展的推進に不可欠な事業である、「がんゲノム医療中核拠点病院」指定に向け、指定条件のクリアとともに診療体制を確立すべく、綿密な計画を大学病院と一体となり取り組んだ結果、平成30年2月に選定された。</p> <p>・橋渡し拠点として拠点外の施設を積極的に訪問することにより学外支援シーズは引き続き増加した。中四国地区における第一回橋渡し連絡会も開催することができ、中四国内における当該拠点事業の認知度は確立したものと考え、今後はより細かな支援内容を行っていく必要がある。</p> <p>・外部資金獲得にはについては公募情報を各会議体(病院一体)等において積極的に広報し、情報提供を行うとともに申請者とAMED等との連絡の支援を行った。文部科研については事前添削を積極的に実施した。</p> <p>・クロスアポイントによるコーディネータの雇用を実施し、研究推進産学官連携機構医療系本部の活動強化を行った。</p> <p>・改組・再編された医療系等研究開発戦略委員会のもと上記活動の戦略立案を行うとともに「ブレインストーミング2016 in Carillon House」の開催を行った。</p>
②-2 全学の組織目標との関連	②-2 大学全体への貢献
大学としての組織目標である、研究大学「岡山大学」の構築に沿っている。	医療法上の臨床研究中核病院の承認、第3期橋渡し拠点事業への採択に続くがんゲノム医療中核拠点病院の指定は研究大学としての活動を推進する本学にては特筆すべき成果である。医療系キャンパスにおけるさらなる研究力強化のための基盤を確立した。
②-3 目標とする(重要視する)客観的指標	②-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況
<p>①特定臨床研究に関する論文数の増加</p> <p>②橋渡し拠点において支援するシーズ数、学外支援施設の増加</p> <p>③特許申請数の増加</p> <p>③外部研究資金の獲得件数と金額の増加。</p>	それぞれおおむね達成され、その結果がんゲノム医療中核拠点病院採択に至っている。

③社会貢献(診療を含む)領域	
③-1 目標 第3期中期目標・中期計画の2年目として社会貢献領域の目標を設定する。	③-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組
①おかやま地域発展協議体への医療系としての積極的かつ主体的参画 ②国立六大学によるグローバル教育・研究の充実・強化への積極的かつ主体的参画： ミャンマー医療人材育成支援のためのプログラムに積極的に参加する。 ③岡山大学メディカルセンター構想(OUMC)の実現に向け活動を病院と連携しながら推進する。	・おかやま地域発展協議体の運営に参画し、国際学都研究の推進等に尽力したほか、医療系分野における産学官連携の一環として山陽新聞社との共催による「健康フェスタ inOkayama」を企画・立案し、平成30年5月開催に向け、実施案を策定中である。 ・「ミャンマー医学教育強化プロジェクト」については、新たなプログラムとして、臨床工学技士養成を目的とした「ミャンマー医療支援プロジェクト」をJICA・本部GP等との連携協力のもと「医療系キャンパスグローバル化プロジェクト推進会議」とも支援体制を構築し、SDGs達成・実施に向けた具体的な体制作りを行っている。 ・大学執行部(横野学長)の新体制の下、OUMC構想からCMA-Okayama構想に引き継がれ、実現に向け、大学病院及び関連病院との協議を継続に実施している。
③-2 全学の組織目標との関連 全学の組織目標と合致する取り組みである。	③-2 大学全体への貢献 病院と協力して積極的な取り組みを行っており、大学全体の方針に大いに貢献している。
③-3 目標とする(重要視する)客観的指標 ①おかやま地域発展協議体における医療系課題の提言数 ②ミャンマーよりの医留学生・短期研修生受け入れ数の増加 ③OUMC構想実現のための具体的な連携内容の確定、病院別法人化のための制度設計の具体化	③-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況 指標についてもおおむね達成されている。特にミャンマーからの受け入れは安定化している。
④管理運営領域	
④-1 目標 上記①②③の目標達成に向けた ①部局運営体制の強化・活性化を推進する。特に、各学系との横の連携を深化・進化させるため従来の会議体においてPDCAサイクルを用いた目標の工程管理を行う。 ②効率的・戦略的な予算配分・執行のため、各講座単位での具体的な課題、問題点を把握する。 ③安全衛生に対する配慮のため、職場巡視、ストレスチェック等を推進するとともに啓発活動を行う。 ④施設整備の推進について、関連事務局との連携を行い中長期的なプラン策定のための調査を行う ④法令遵守の徹底について、種々のコンプライアンス関連の講習会等を計画的に実施する。 ⑤保健学研究科との統合に関する議論を加速し一定の方向性・コンセンサスを得る。	④-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組 ・歯歯薬学総合研究科(医学部・歯学部・薬学部含む)の平成29年予算配分及び予算執行に関し、配分の流れ、方法や執行状況を把握・検証するなど、赤字経営とならぬよう事務サイドと情報を密にし、課題・問題点等の抽出を行っている。予算配分方針見直しの具体例としては、外部資金に係る間接経費の使用に関する基本方針について見直しを行った。 ・鹿田地区安全衛生委員会と連携し、職場巡視実施と巡視による改善、全職員へのストレスチェック実施の呼びかけ等積極的に行った。 ・平成30年度以降の施設整備要求事項策定に当たっては、事務局とのヒアリングを含め、鹿田キャンパス施設整備将来構想を念頭に機能強化を目指した要求書を策定した。また、歯学部棟や保健学科棟改修、旧生化学棟改修等々、喫緊の課題を踏まえ、鹿田キャンパス施設整備中長期計画策定のベースとなる施設整備の現況等について検証を行っている。 ・コンプライアンスの徹底を目標に掲げ、平成29年10月に、「身近にあるハラスメントマタニティ・ハラスメントやLGBTに対するハラスメントについて」、「ハラスメント相談について」と題した講演会を開催し、ハラスメント行為のないキャンパス創りに務めた。 ・保健学研究科との統合については、ヘルスシステム統合科学研究科設置及び教員人事凍結状況を踏まえつつ、議論を重ね、保健学研究科において検討WGを設置し、継続検討を行っている。 今後は、保健学研究科での検討状況を加味し、統合の検討を進めることとしている。
④-2 全学の組織目標との関連 全学の組織目標と密接に関連している。	④-2 大学全体への貢献 全学の組織目標に紐付けしつつ、部局運営体制の強化等積極的に取り組んだ結果、大学の目標達成に関して積極的に貢献できた。
④-3 目標とする(重要視する)客観的指標 ①コンプライアンス関連の講習会の実施 ②各講座における予算執行状況の把握と課題の抽出 ③ストレスチェックの実施率 ④保健学研究科との統合に関するコンセンサスの作成	④-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況 指標についてもおおむね達成されている。
【総括記述欄】	
医療教育センターへの再編、医療系キャンパスグローバル化プロジェクト推進会議、がんゲノム医療中核拠点の認定と、特筆すべき取り組み成果を挙げているが、これは従来実施してきた、一連の教育・研究・グローバル化活動の成果の上に立脚したものであり、今後より一層持続的に発展させるための次なる戦略的取り組みと位置付けている。	